

京都市多文化施策審議会 ニュースレター No.22



京都市
CITY OF KYOTO

編集：京都市多文化施策審議会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）

2017（平成29）年10月発行

2017年度 第1回会議を開催！



テーマは

がいこくせきし みんとう
外国籍市民等と
ちいき
地域コミュニティ



<日時> 2017（平成29）年6月20日（火）午後2時から午後4時まで

<場所> バザールカフェ（京都市上京区烏丸通り今出川上ル）

<議題> 外国籍市民等と地域コミュニティ

報告1 「東九条こども食堂」の試みから 報告2 バザールカフェ活動報告

報告1

「東九条こども食堂」の試みから

報告者 ▶ 在日大韓基督教会京都南部教会 許伯基牧師

● 始めたきっかけ

在日大韓基督教会京都南部教会は在日コリアンによって1928年に建てられた教会で、在日コリアンの集住地域である東九条にある。1978年からは「オモニ学校」という在日コリアンに日本語の読み書きを教える教室の会場にも使われてきたが、90年代以降は参加者も少なくなり、教会と地域との関係が希薄になっていった。

2年前に赴任した際、地域との関わりを復活させないといけないということをいろいろな人から言われたため、それについて模索する中、この教会には立派な厨房や食堂があるので活用されていないのはもったいないという声を聞き、子ども食堂を始めることにした。（2016年9月15日発足。）

● 始めるにあたって気を付けたこと

東九条では、住民による様々な活動が行われているため、そうした活動とぶつからないように気を付けた。東九条まちづくりサポートセンター「まめもやし」や希望の家カトリック保育園などにも相談し、営業時間をきちんと決めること、発足式を行うことなど、いただいたアドバイスは取り入れて準備を進めた。



許伯基 牧師

●東九条こども食堂について

- ・日時：毎週木曜日 午後5時30分～午後7時30分
- ・料金：大人（19歳以上）300円，18歳以下は無料
- ・用意する食事：100人分は用意。
（90人を超える方にお越しいただく日もある。）
- ・2時から仕込みを始める。
スタッフは大体11～12人（多ければ13～14人）
- ・毎回1万2,000円から1万5,000円の赤字が出る。
- ・教会誌にこども食堂用の献金と呼びかけている。



「セカンドハーベスト京都」（支援活動を行うNPO団体）から菓子や食材をいただくこともある。

他の子ども食堂では、月1回や隔週などイベント的にやるところが多いが、東九条こども食堂は毎週開くことにこだわった。木曜日の夕方にここに来れば必ずご飯が食べられるというように、人々の生活の中に入り込んだ食堂にしたかったためである。

また、作りやすい料理ではなく、来た人が食べたいような料理を出すことにこだわっていて、メインと副菜とデザートを必ず出すようにしている。

●利用者の声と今後の展開

保育園は一緒だったが小学校は分かれてしまった子どもたちが、「ここに来たら友達に会える」とこども食堂に来ることを楽しみにしていたり、一人暮らしのお年寄りから、こども食堂ではわいわいご飯が食べられてうれしいという声を聞くと、こども食堂は地域コミュニティを作っていく可能性の一つなのだと思う。

今後、コンサートや紙芝居などジョイント的なイベントを行ったり、学習支援を立ち上げて子どもたちの宿題を食堂で見えあげられるようなことができればと思っているが、人手不足という課題があるため、実際に先に進めるのは困難な現状がある。



東九条こども食堂の様子

報告2

一人の人から始まる大切さ 人と人との出会いの場—バザールカフェ活動報告

報告者▶バザールカフェ 小島麗華様、狭間明日実様



カフェスタッフの狭間明日実様

●バザールカフェについて

バザールカフェは19年前、HIVエイズに関わる支援者や大学教員、牧師、アーティスト、学生など様々な人々が共同してHIV陽性者の方たちの居場所や就労機会を作るためにできた。やがてHIV患者の人たち以外にもいろいろな人が集まるようになり、そこから日本に住む外国人のサポートも始まった。

ここでは、国籍、人種、性別、年齢など様々な違いを持った人たちが集い、交流を深め、その人らしく生きられる場所として、また、様々な理由で就労が困難な人々の新たな労働の場として、共に学び成長していく機会を大切にしている。

●バザールカフェでの取組

社会的マイノリティーの人たちが定期的に集まるミーティングやプログラム、勉強会を開催している。「バイブルシェアリング」というプログラムでは、参加者が自分自身について語り、他者から共感を得ることで自分自身を肯定するというもので、大切にしている取組の一つである。

1年に一度行う「フィエスタ」では、カフェに関わる人たちが母国の料理や雑貨を販売し、来場したお客さんと直接顔を合わせて交流できる機会になっている。また、大学生のフィールドワーク先としても受け入れており、学生達にはここで様々なことを学んでほしいと思っている。

●自分らしくいられる場を目指す

バザールカフェに来る人の中には、生きづらさを抱えていたり自分のことを大切にできない人が少なくない。バザールカフェでは彼らと時間を共にし、互いにありのままを受け入れ愛される経験を通して、自分や他者のことを大切にできるようになれたらいいと思い活動している。

カフェという形態の良いところは、来ても来なくてもよい、自由な場所であること。ここに来て何か手伝うも手伝わないも、自分のしんどいことを話すも話さないも自由であり、その選択ができると無理なく自分のペースでここに来れる。

共感によってエネルギーが生まれるが、共感というのはそんなに簡単なことではなくて、「それは違う」と思うこともある。しんどいこともあるが、それでも、ここは自分自身が感じていることを話せる場、自分自身の感性に素直になれる場だと実感している。



あなたにとって、バザールカフェはどういう場所ですか？

バザールカフェに関わる人たちに、フリップに書いてもらいました！

「ここにいていいと思わせてくれる場所」
「ムードメーカーとなって応援したい場所」「仲間たちのいる癒しの場所」
「帰りたい場所」「心も体も元気に優しくなれる場所」
「バザールカフェはマイプレイスです」「人と人がつながる大切な宝宝箱」
「セカンドホーム」「カフェにとらわれず、新しい自分に出会える場所」
「生きていく場所、命をつなぐ場所」

—委員の意見（抜粋）—

- ・こども食堂が、本来の目的にとどまらず、多文化、多世代の人たちが交流できる場となっていることを実感した。こうした場は大切だと思う。
- ・バザールカフェで息子がボランティアをしていたことがあったが、そこでは学ぶことがとても多い、すごく良い経験をさせてもらっていると聞いていた。
- ・中心になっているのはカフェや食堂などの運営であっても、そこに集まってこられる方にさりげなく悩みを聞いたり、集まってこられる方たちのネットワークを作っていくことは可能であり、そうした取組は重要だと思う。
- ・運営に当たっては、ネットワーキングが重要だということを改めて学んだ。支援者同士のネットワークはもちろん、周辺の住民の方や地域の方々とのつながりを作ることも大切である。
- ・外に向けてネットワークを広げていくということも重要である。

新しい委員のご紹介

2016年度にお世話になった西田尚浩委員と渡邊洋子委員に代わり、新しく孫美幸委員と村井繁光委員が第4期委員に加わりました。

孫美幸委員

大阪大学で講師をしています。大学では、学生と地域をつなぐことをテーマとした仕事をしています。2006年から2010年まで、この審議会の公募委員を2期させていただきました。よろしくお願いします

村井繁光委員

この4月から、伏見青少年活動センターの所長をしています。伏見青少年活動センターは、日本語教室や多文化共生の支援のプログラムを通して外国籍市民等と交流をしていくことをテーマに掲げています。

2016 (平成28) 年度報告書を提出しました



2017 (平成29) 年3月28日、京都市多文化施策審議会を代表し、浜田麻里座長が門川京都市長に対し、同審議会から京都市に対する提言を含めた「2016 (平成28) 年度報告書」を提出しました。

～京都市への提言～

提言1 ▶ 外国籍市民等に対する差別や偏見のないまちづくりを進めるため、外国籍市民等についての理解を深める取組を充実させること
外国籍市民等に関する人権教育をはじめ、学校教育や社会教育の場などで外国籍市民等について学ぶ機会を充実させることが重要である。

提言2 ▶ 外国籍市民等と日本人の交流を深めるための場所や機会を充実させること
例えば児童館や区役所など市民にとってより身近な場所を多文化交流の場所として積極的に活用していくことが重要である。また、情報発信にも様々な工夫が必要になる。さらに、多文化共生推進の一員である意識を高めるため、市職員を対象とした研修を実施することも有効である。

※報告書を御希望の方は事務局まで御連絡ください。また、報告書の内容は京都市国際化推進室のホームページに掲載しています。

事務局からのお知らせ

ニュースレターや審議会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。
(審議会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

また、審議会ニュースレターのバックナンバーを御希望の方は、下記までお問い合わせください。

京都市多文化施策審議会事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地 京都市総合企画局国際化推進室

TEL: 075-222-3072 FAX: 075-222-3055 Eメール: kokusai@city.kyoto.lg.jp

ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/soshiki/2-10-0-0-0.html>



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



発行：京都市総合企画局国際化推進室
京都市印刷物第294552号